



ぶっく★まーく

# 編集スタッフのおすすめ



このコーナーでは、情報・図書コーナーの中から、本紙スタッフがピックアップした本を紹介しています。

このほかの本も、ぜひご利用ください。※書籍下の番号はセンターでの検索番号です。



[200-5]

3人で親になってみた ママとパパ、ときどきゴンちゃん

2021年 毎日新聞出版

杉山 文野 (著)

トランスジェンダーのパパが子どもを持ち、育てたい！不可能を可能にしたカップルと親友ゴンちゃんの奮闘記。「子育ては、その過程を楽しむことも知れない」という著者のことばが心に残った。(ルナ)



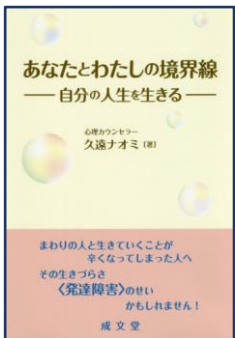
[300-0]

モヤモヤしている女の子のための読書案内

2020年 河出書房新社

堀越 英美 (著)

人には言えないモヤモヤを言語化するヒントになりそうな本が案内されている。道徳的なさわやかな物語だけでは楽しめない心に、ぜひ。いい子のふりに疲れたら、目を引いた本からどうぞ。(ぽっと)



[300-2]

あなたとわたしの境界線 —自分の人生を生きる—

2020年 成文堂

久遠 ナオミ (著)

今まさに「発達障害」で苦しんでいる人が、自分やパートナーに合う生き方を見つける手助けにと書かれた本書。数々の具体例を参考に、解決の糸口を見つけてほしい。きっと乗り越えられる。(ルナ)



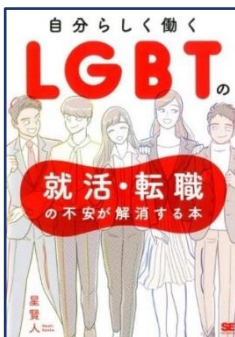
[400-2]

フェミニズムってなんですか？

2022年 文藝春秋

清水 晶子 (著)

女性であるがゆえの不自由さに気づいたとき、どうするか。それを考えるためのヒントをくれるのがフェミニズムと著者は言う。幅広い視点から、女性の「生」の可能性を広げるためにできることを考える。(こなつ)



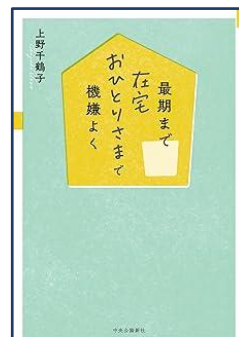
[800-1]

自分らしく働く LGBTの就活・転職の不安が解消する本

2021年 翔泳社

星 賢人 (著)

面接官のLGBTへの理解は千差万別。リアルな不安に対する「向き合い方」と「解決策」を本書がわかりやすく解説する。目的を見失わず、自分の言葉での回答準備を。自分で決めたその一歩信じて。(ぽっと)



[1000-3]

最期まで在宅おひとりさまで機嫌よく

2022年 中央公論新社

上野 千鶴子 (著)

家族と暮らしている人も、いつか「おひとりさま」になる可能性はある。ひとりでも、年をとっても、病気になっても、機嫌よく生きていきたい！10人の女性との、示唆に富む対談集。(こなつ)

## 編集後記

昨年は戦争や災害などの、つらいできごとが多くありました。助け合い認め合って、だれもが希望を持って生きられる世の中であってほしいと願います。本年が平和な年になりますように。そして、みなさまがよい本と出合うことができますように……。 (こなつ)

